

人に優しく

安城中部小学校長 稲留 雄一

1月末から卒業生の皆さんと会食する機会をいただきました。給食の時間に5人ほどがグループになって校長室を訪問してくれます。日々「検食」という名の給食をいただいている私にとっては、とても楽しいひと時です。

会食では6年間の思い出を語ってくれる子、中学校進学に向けての不安や期待を語ってくれる子、将来の夢を語ってくれる子、様々ですが、校長室で給食を食べたという、ちょっとした小学校の思い出になってくれればとも思います。

そんななか、「私の将来の夢は優しい先生になることです。どうしたら優しい先生になれるか？」と質問してくれた女の子がいました。将来先生になりたいと言ってくれただけでもとっても嬉しくなりました。この子はきっとこれまでの小学校生活の中で先生の優しさに触れ、あこがれを感じてくれたのでしょう。でも、どうしたら「優しい」先生になれるかという質問にどう答えたらよいのだろうか、少し考え込んでしまいました。

人に優しくするためには、どうすればよいのでしょうか？正直あまり意識したことがありませんが、昔から心がけていることはあります。まだ20代の若かりし頃、担任していた子どもに「先生は朝部活で機嫌が悪いと教室でも機嫌が悪くから嫌な気持ちになる」と言われたことがありました。教師としての経験も浅く、指導力もない私。日々一生懸命ではありましたが、勢いに任せて子どもたちと接していたのだと思います。鬼のような顔をして朝の会を始めていたのでしょう。この一言は、今でも忘れられません。人に優しくするとは全く逆の教師の姿です。

その時から、機嫌が悪くなることはあるのですが、自分で自分の機嫌をよくするように心がけるようにしました。大人になるにしたがって、機嫌をとってくれるような人はなかなかいません。自分の機嫌は自分でとるしかないのです。そうしないと、また、鬼のような顔をして人と接することになってしまいます。

「自分の機嫌は自分でとって、機嫌よくいることが、人に優しくすることの第一歩だと思っています。」こんなことを質問の答えにしました（鬼の顔をしていたことは話していませんでしたが）。どこまで通じたのかは疑問ですが、家族の次に子どもたちと時間や空間を共有する教員として、いつもこうありたいと思っています。

もう一つは、小さな楽しみを見つけること。おいしい給食でも、友達と休み時間に遊んだり話したりすることでも、好きな音楽でも、テレビ番組でも、何でもよいのです。小さな楽しみを見つけることができれば、その日を楽しく過ごすことができます。心のエネルギーも湧いてきます。自分が楽しく過ごすことで、笑顔になり、周りの人にも優しくすることができるのだと思うということも話しました。

言葉では簡単なことですが、大人でもなかなか難しいことです。それでも、大人が機嫌よく、楽しそうに過ごすことが、子どもたちにとって、「大人になることへのあこがれ」や、中には教師になることを夢見て成長してくれることにつながると思っています。まずは、大人が機嫌よく楽しく過ごすことから始めてみましょうか。



